

いつもそばに教祖が居てくれる事を知り、これまで以上に勇んでにいがけに回ったそうです。

この話を聞いて、やっぱり教祖はいるんだ、ただ自分は、この人より少し教祖との距離が遠いだけなのだと思います。じゃあどうしたら近くなるかという、やはり、それはおぢば帰ります。おぢばで御守護が頂けるのです。

私も昨年の一期講師で、そのおぢばの素晴らしさ、凄さを身を感じる事がありました。もちろん一期講師の3ヵ月間は、自分が今まで体験した事がない充実感のある毎日、他の事は何も考えず、15人の生徒の事だけを考える3ヵ月間は私にとって貴重な体験でした。

私の好きな先生に山本利雄先生と言う方がおりました。先生は教会長でありながら医学博士でもありました。その先生がいつもおっしゃっていたのは、癌が治ったとか、目が見えない人が見えるようになったとか、歩けない人が歩けるようになったとか、よくそれを奇跡と言いますが、本

当の奇跡は、幾つもの奇跡が重なって1人の人間が生まれてくるという事で、そして生まれてからも、毎日休む事無くこの身体を動かして下さる、親神様の御守護、すなわち今生きているという事、これこそが最大の奇跡であると教えてくれました。

現在のこの発達した医学でも、血の一滴すら創れませんし、この身体は、いつの時代になっても創る事は出来ないでしょう。はたしてお金にすれば、いくら価値があるのでしょうか。そんな凄惨なものを、私達は毎日無償で使っているのです。そしてこの身体は親神様からお借りしている事を知っている私達は、おぢばに帰らせて頂き、そのお礼を言わせて頂く事が、大切ではないでしょうか。

そしてそれを人間の親である親神様・教祖は待っていて下さいます。今年の10月の本年秋季大祭には、どうかここに居られる方ももちろん、身近におられる方をお誘いして、おぢばに帰らせて頂きましょう。

三代真柱様 五年祭

6月24日、三代真柱 中山善衛様の五年祭が、中山大亮様祭主のもと、本部神殿、本部教祖殿で厳かに執り行われた。

当日は、例年よりも梅雨入りが遅く、穏やかな日差しが降り注ぐなか、親族をはじめ、本部在籍者、直属教会長、教区長のほか、各地から参集した教会長やようぼく・信者らが大勢参列した。

大亮様は、「祖霊殿の儀」の祭文で、三代真柱様のご遺徳をたたえられ、そのうえで、「在りし日の面影をお偲び申し、ご遺徳をたたえて、御厚恩を厚く御礼申し上げます。何卒、霊様には、ご遺訓を胸に刻み、時句の御用に励むようぼくたちの成人を御心放たずお見守りくださいまして、たすけ一条の歩みのさらなる前進をお見せいただきますよう、お導きのほどを」と願われた。

祭員らの退場後、宮森内統領が、お礼の挨拶を述べられ、滞りなくつとめられた。

ようき会通信

〔札幌地区ようき会〕

6月11日・12日、「第3回 網走大教会参拝バスツアー」を開催した。

今回は、層雲峡「銀河の滝」、温根湯「森の水族館」を見学し、「つるつる温泉」で温泉につかり大教会に到着。夕食後、「ペチャクチャ会」を開催し多くの参加者と会話を楽しみ交流を深めさせて頂いた。12日は、参加者全員大教会の月次祭を参拝し、大教会長様より温かいお言葉を頂き、大



教会の理をお土産に帰路についた。今回も、今まで以上に「喜びと笑顔あふれるツアー」になった。参加者42名(教会長夫妻を含む)

